

FIELD TRIP

幼児を連れて行ける
そんな森林は
けっこうあるものです。
ここからは札幌周辺の
遊べる森林公園をご紹介します。

野幌森林公園

三角山遊歩道

西岡公園

支笏湖野鳥の森

利根別休養林

恵庭公園

高丘森林公園

マオイ丘陵

札幌

札幌の周りには
遊べる森林が
たくさんあるのじゃ。
再び幹爺と一緒に
見て回るのである。



森林の遊びは気候の良い季節だけの専売特許ではない。
雨が降ればよみがえったような鮮やかな緑を見ることが出来るし、
晴れている時よりも顔を出す生き物がたくさんいる。カエルとかミミ
ズとかね。
雪が降ればふかふかのクッションの上で遊んでるようなもの。いつ
もは落ちることを心配してしまう木登りだって、いくら落ちてても転ん
でも、全然痛くない。その時々によって変わる表情は、もちろん森林に
よっても変わってくる。北海道は森林の宝庫だ。そして札幌の周りは、
気軽に遊べる森林公園の宝庫なのだ。

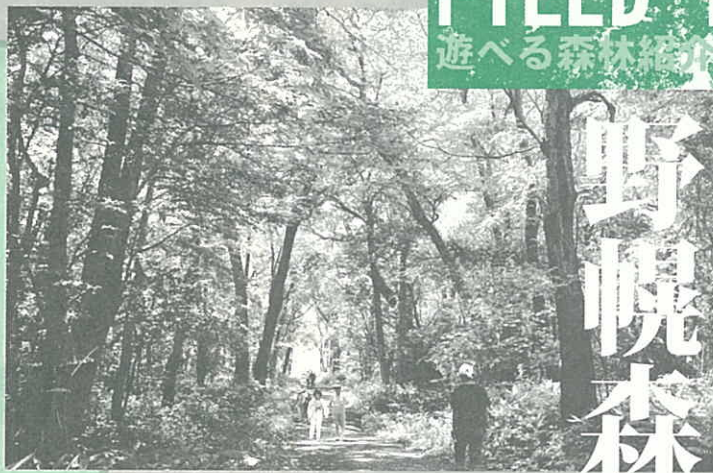
森林に、会いに行こう。
森林に、遊びに行こう。

FIELD TRIP

遊べる森林紹介

江別市

野幌森林公園

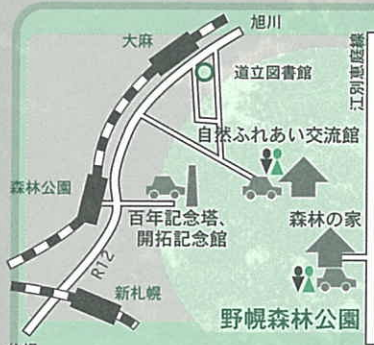


札幌のすぐ近くにある、行くのにとっても便利なところだ。この森はとても大きな森だ。まずは森林公園駅近くの百年記念塔に行くのがいいかな。芝生もあってそこで走り回ったり、遊ぶこともできる。お弁当をたべるにもいいよ。

平らで歩きやすい大きな森。森というと坂道で疲れると思う人も多いかもしれないが大丈夫。道がたくさんあって、一時間でも半日でも、いろいろなコースを組み合わせて歩けるよ。

森、森、森。

○野幌森林公園
札幌近郊の巨大な森林公園。アクセスはたくさんあるが、開拓記念館や自然ふれあい交流館から入りやすい。自然や昔の北海道の暮らしを見学してから外で遊ぶことも出来る。



- 自然ふれあい交流館 9:30~16:30 休館：毎週月曜日
- 北海道開拓記念館 9:30~16:30 休館：毎週月曜日
- 森林の家 10:00~16:00 休館：毎週月曜日

静かに森を歩いてみよう。大麻駅に近い、大沢口から最初の四辻までの間、自転車のノロノロ運転競争みたいなのをやってみよう。スタート。森の天井を見上げたり、右向いたり、左向いたり、じっと立ちどまつたり、しゃがみこんだり、見えている四辻まで競争。誰が一番おそいかな。しゃべったら負けだよ。

森の音を聞いてほしいな。森の天井のみどり、差し込んでくる太陽の光。カラフルな葉っぱも見えてほしいな。ずっと森の奥から、森の誰かが話しかけてくるのが聞こえてくるまで、このわずかの距離だけど、時間をかけて歩いてみてね。

FIELD TRIP

遊べる森林紹介

札幌市

三角山遊歩道



街からすぐ近く。

元気に山を登るところだな。ふもとに住んでいるたくさんの方が利用している山。歩く人も多いので安心だ。山道と昔のトラツクの道と交互に歩いて、どんどん登る。山頂からの眺めはすこいよ。さつぼろの街が全部見える。大きな街だなんてわかる。道々、お花も鳥もいろいろいるから気をつけて見てね。毎日来ている人もいるからお花の名前おしえてくれるかもね。

夏の山頂にはチヨウチヨが風に乗って遊びに来てるんだ。秋はトンボだね。いっぱいいるよ。

山の上まで
鳥や蝶々。

夏の日山頂にすわって吹きあがってくるキアゲハをまっているというのほどうかな。鳥さんも横切っていくかもしれないよ。秋にはハリオアマツバメなんて大きな鳥も、飛んできてシューーなんて大きな風を切る音が聞こえるかもね。

山に行ったら、しばらくじっとして草木のそよそよささやきや、鳥の動きを感じること。それをお母さんに話してあげてね。

○三角山遊歩道

三角山への登山口は西野からが便利。多くの方が登るために冬でも登りやすい登山道がある。登山道は長くつながっており、大倉山などに縦走できるため、ちょっとアドベンチャー気分な長い山登りも体験できる。駐車場は大きくないので注意が必要。



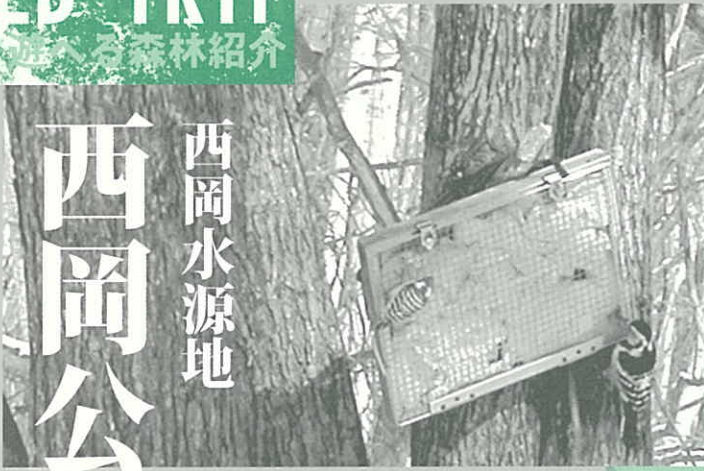
FIELD TRIP

進む森林紹介

札幌市

西岡公園

西岡水源地



○西岡公園
かつて水源地だった場所を公園化したものだが、木道などもあって歩きやすく、楽しめる。駐車場はあるが、冬期間閉鎖なので注意が必要。

札幌羊ヶ丘近くの西岡水源地。池とそれを取り巻いて山道がよく整備されているよ。近所の人たちにもよく利用されている。道も平らだから歩きやすい。池の奥の湿原の木道歩きもいいよ。春のミスバシヨウからいろんな花も咲いて、それに小鳥の声も多いよ。
夏はハイキング。池の周りをぐるりと一回りなら一時間もかからない。幼稚園バスも来ているよ。

冬の餌台に集まる鳥たちは森の楽しみ。

西岡の楽しみのひとつは、冬の餌台だよ。自然の好きな人たちが、みんなで餌を持ち寄って、みんな鳥さんたちと仲良しになろうと餌をおいているのさ。冬だけどもみんなが歩いているので雪が踏み固められて道になっっている。だから安心。途中の橋のところ、池の流れ出るところには、マガモさんが冬越ししている。

餌台に行く時はヒマワリの種を持って行ってあげてね。手に乗せて、じっとしていると鳥さんが手に乗ってくれるかもしれないよ。おどかさないうちにじっとしていること。じっとしていることが自然と仲良しになるために大切なことなんだ。



FIELD TRIP

進む森林紹介

千歳市

野鳥の森

支笏湖



○支笏湖野鳥の森
国民休暇村からモーラップキャンプ場までいくつものルートで遊歩道が広がっている。ビジターセンターでも自然について学べるし、夏期にはボランティアの方がガイドもしてくれる。トイレや駐車場は冬期閉鎖になるので注意が必要。

■支笏湖ビジターセンター
9:30~17:30 冬期は火曜日休館

湖沿いの気持ちいい歩道。

湖に沿った森の道。そんなに上り下りがない道。眺めはいいし急ではないので歩くのもいい場所だ。温泉に入ることにして、その前に歩いてみるのがいいかもね。
支笏湖ビジターセンターで森の生き物たちのことを見てから歩くのもいいかな。
湖岸にある古い鉄橋もなかなかいいよ。展望台からは支笏湖の眺めがいい。湖がでつかいのわかる。温泉の前の広場で虫さんを見つけたら、鳥さんの声を聞くのもいいけれど、モーラップにつながる道を歩いてみよう。湖を見ながらの森の道だよ。
木々の間から湖が見える。道のそばにはお花も咲いて、鳥さんの声も聞こえる。鳥は初夏がいいな。すごく近いところでキビタキの目のさめるような黄色に出会えるかもね。

ゆっくり歩く。周りの生き物に合わせて。

そういう時はスタスタはダメなんだ。ゆっくり、ゆっくりが大事だよ。鳥さんたちはみんなに会いたがっているのに、歩いている君たちが、せかせかしているからむこうであきらめてしまうのさ。そんなことではいけないよ。





岩見沢市

利根別休養林

水を守る森



みんなが使う水をためる大きな池があるところ。この水が枯れないように、森をきちんと残してあるところ。森は降ってきた雨をたくわえて、ゆっくりと池に水を流し出す。だから、大きな森がいるんだ。

高速道路そばの入口には園地があって、ここで遊んでいてもいいよ。木もいっぱい。鳥の声も聞こえるよ。ウォーキングセンターもあるから雨が降ってきてても大丈夫。少し山道だけど、たくさんハイキングコースがあつて、長いから短いまで組み合わせができる。

奥まで行けば
利根別原生林。

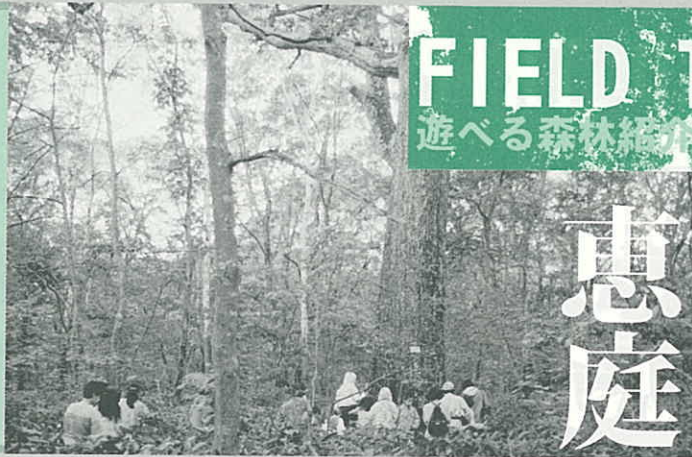
池の向こう側のコースがいいよ。山頂までの緩やかなコース。ここには大きな木があつて森らしい。木の下に立って森の天井を眺めてほしいな。両手を広げてみどりをいっぱいに受け止めてほしいな。お花も多い。鳥さんたちもたくさんいて歌声が聞こえるよ。

山頂まで行ったら帰りは車の道をゆっくり降りてくれば元の園地に戻れるよ。



○利根別休養林

大正池という貯水池を廻る散策ルートが面白い。キャンプ場などもあるが、ウォーキングセンターは木工室や研修室などもあり、利用しやすい。



恵庭市

恵庭公園

川のはじまり。
水の旅を感じる。

ここはね、川の生まれる森なんだよ。森の奥の地面の中から、地面にしみこんだ水が湧き出して、それがだんだん集まって川になるんだ。水の湧き出している所は良くわからないんだけど、いつのまにかきれいな流れになっている。不思議な森なんだ。

どこかで降った雨がゆっくり地面にしみ込んで、それが真つ暗な地面の中を通過して、やっと出てきたのがこの公園の森の中なんだ。長い長い水の旅だったのだ。そして、今度は川になって海までの旅だ。今度はいつ戻ってくるのかな。

歩きやすい。
遊びやすい。

道もよく整備されているし、平らだし歩きやすい。森の奥の方にはとても大きなドングリの木があつてこの木にも会ってほしいな。近くの幼稚園なんかでもよく遊びに来ているところだ。春にはたくさん花も咲くよ。鳥も多いとこなんだ。

運動公園とくっついているのでそっちも遊びに行くといいよ。



○恵庭公園

恵庭公園は、森林に入る遊歩道も面白いが、広い園地には子ども達が遊べる遊具も点在するので、森林に入りたがらない子にも遊びやすい。また、陸上競技場、野球場などがそろうた運動公園が隣にあるため、スポーツの関係する行事でも使いやすいだろう。

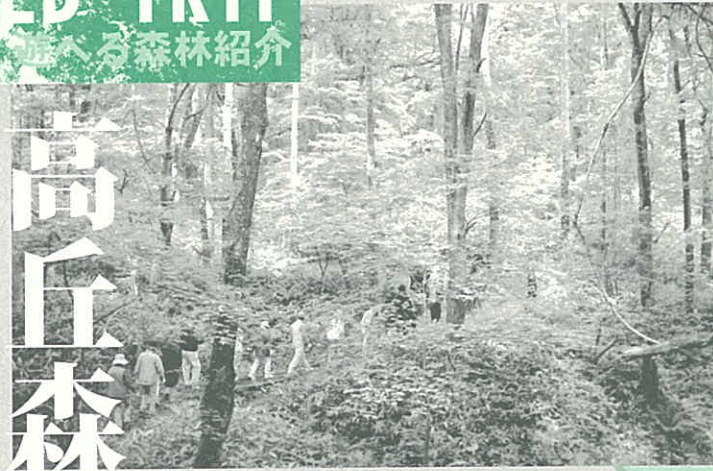


FIELD TRIP

遊べる森林紹介

苫小牧市

高丘森林公園



○高丘森林公園
広い裾野を持つ樽前山の台地の公園。自然観察コースやバリアフリーのコースなど、散策路が充実している。正面の金太郎池には公園管理事務所のほか、バーベキューハウスなどもある。他にもミズナラ公園口などから散策路に入れる。



近くの北大の苫小牧演習林もいよ、川も芝生もあって楽しめる。道もいっぱいついでいるんだ。

他の森に行くのも良いかもしれない。

森の木にはおもしろい形に枝を出したり、途中に穴をほったり空けていたり、いろいろな木がある。おもしろいな、と思う木をみつけたらその形を手足を使って、その形になってみよう。お互いにどの木をまねしているのか、あてっこするのがいいよ。森の中の木になって、森の話、してくれないか。今朝、リスが登ったときのこと、教えてくれないかな。

木を見てみよう。木の気持ちになってみよう。

苫小牧の街に近いところ。広い森の公園だ。池のある園地もあって小さな子がいても、そこで遊べる。森の道はたくさんあっていっぱい歩ける。坂もそんなにきつくないからいいよ。初夏からお花も咲いて、鳥の声も森の中から聞こえてくるよ。
森の奥からの音。森のにおい。ほおに当たる風。しばらく、森の中に入ると静かに耳をすませてみてね。

FIELD TRIP

遊べる森林紹介

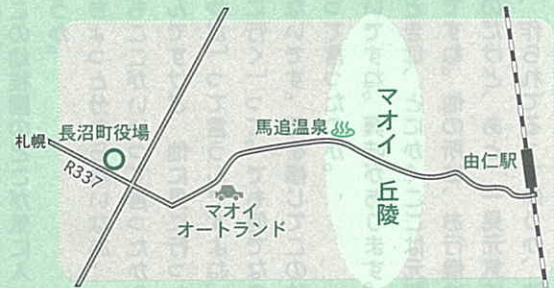
長沼町

マオイ丘陵



○マオイ丘陵

マオイオートランドや温泉などには公衆トイレなどはないので、道の駅ですませておこう。オートランドは冬期間営業しないので注意が必要。

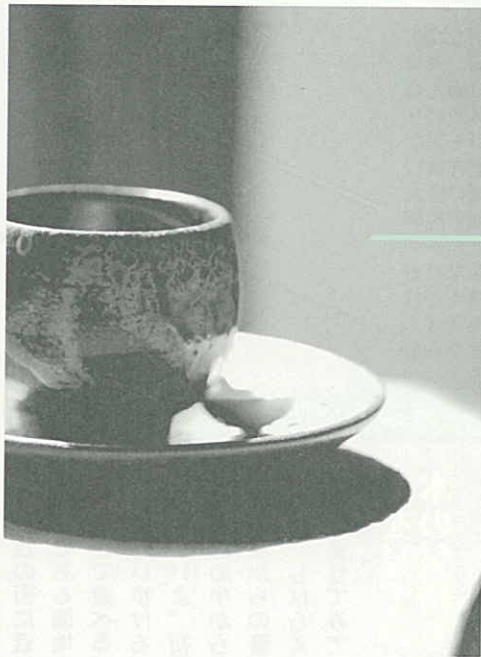


おとうさんと森の道で立ち止まり、森の中のひんやりした空気をいっぱい吸い込んでね。気持ちいいよ。そういう時は両足をしっかりとふんばって、手をゆっくり上げながら息を吸い込むんだよ。それからゆっくりゆっくり吐き出す。これが極意なんだ。

深呼吸をするととても気持ちがいいんだ。

ゆつくりとハイキングを楽しむ
平野の向こうに札幌の町や野幌森林公園を眺められる低い山々。ハイキングにいいよ。
たくさん行くところはあれど、ひとつの案は長官山という馬追丘陵の端っこの山に登るコース。馬追温泉のところから行くのがいいかな。そんなに急でもないからゆつくり行けばいい。
もうひとつは馬追オートランドからの道。みんなが湧き水を汲みに来ている井戸から登る。帰りに温泉に行くことにして行けるところまで行って帰ってくるのがいいかもね。山だから足もともしつかり、半ズボンはずまじいよ。手袋なんかも持つてるといいね。夏場はオートキャンプ場からハイキングもいいかな。





cafe time

子ども達の 森林遊びについて 思うこと

自然の中では決してケンカが起こらず
どこまでも続く緑の中で
のびのびと自分らしさを発揮してくれる子ども達。
何かに規制されるのではなく
自分をさらけ出しても受け入れてくれる
安心できる環境がそこにあるのだと思います。
そんな自然の中にこれからも出かけ
子ども達と共に、豊かな時間を過ごしていきたいと思っています。

札幌大谷第二幼稚園のある先生が語った言葉。この言葉の中に、森林の中で活動することの大切さが全て集約されているように思う。森林の中へ子ども達を連れていく立場の先生、そしてそこに子ども達を預ける保護者が、どんな気持ちで「森林遊び」を見ているのかを聞いた。

子どもが 「ここがいい」という幼稚園

●実際に子ども達と接している、保護者の方と先生方にお話を伺いたいのですが、まずはこの幼稚園にお子さんを入園させた理由を聞かせてください。

C: こつちに越してきて、近所の幼稚園をいくつか見学したんですが、子どもが「ここがいい」と言っていたんですよ。

●へえ。お母さんとしては、この幼稚園は他とどう違うように感じましたか？

C: 雰囲気は明るかったですよ。私はね、最初は他と比べると、狭かったんで、不安だったんですけど(笑)。後から聞いたら外にたくさん出るといって、安心して入るんですけど、入るときはそこまで知りませんでしたね。

●お子さんはこの幼稚園のどこが気に入ったのでしょうか。

C: うーん。ちよつと分からないなあ。

D: うちの子もここがいいって言ったからここにしたいんですけど、他に見に行った幼稚園は「やだ」って言うんですよ。

「絶対ここに行く」って。でも何でなのかは分からないです。何を感じてこの幼稚園がいいって言ったのか。

●それは面白いですね。興味があります。

C: 私が見たときは、とにかくここは元気が良かったですね。他の所は、お行儀はとも良いのだけど、あと、一見元気に見えるけど、作られてるっていうか、決められたことを元気にやらされているよ

うな感じが子どもに響いたのか分からないんですけど、ここってそういうのがないですよ(笑)。

D: 「こう言ったらこうお返事するんですよ」っていうのがなくて、自然に「おはよう」って言ったら「おはよう」って返してくれるとか、初対面の人たちにも挨拶してくれたり、先生も子ども達も初めて会った私にも普通に話しかけてくれるみたいな感じでした。それが良かったのかどうか。

●なるほど。先生がしっかりコントロールしてしまっている元気がいいのがここにはないですね。面白い話を聞きました。

C: 私の二人目の子は違う幼稚園に入れたんですけど、外遊びの規模はこと全然違って、先生の子どもへの接し方も違ってましたね。子どもは子どもだけで外でほったらかしになっていて、勝手に遊んでいるといった雰囲気、一緒に遊んでいるっていうふうには見えなかったですね。子どもも結局なじめなくて、だから転園させてしまいました。外で遊んでいる規模が全然違うということもそうだし、遊んでいる先生も違うと思う。水遊びをしていて、先生方がびしゃびしゃになって遊ぶところってないんですよ(笑)。大人が楽しんでいないと子どもが本当に楽しめないんじゃないかな。って。●自然な元気を表現できる子ども達なんです。誰にでも心を開くような子ども達を育てる土台はなんでしょう。先生方は

そのあたり、意識していらっしゃるんですか？

A：んー。ないですね。初めは、自分が子ども達に何を伝えていけるんだらう。自分には伝えられるものが何もなくて不安だったんですけど、森に連れていくことで子ども達は自分で何かを発見していくんだっていうことに気づいたんです。だから、できるだけ外に連れて行ってあげればみんな楽しむし、逆に子どもが気づいたことに私が気づかせてもらって、私も一緒に遊ばせてもらってるところはあつて、だから特に意識しているところははないかなー。

B：自然に関する知識は何もなくて、でも自然の中に行くとか、肩肘張らずに一緒に楽しめるんです。だから気負うもの何もなく、むしろ子ども達に引張られている気がします。子ども達の発見の力はすごいですよね。色んなものを見つけて教えてくれます。その時それが何なのか分からなくても、園に帰って調べたり、年長さんになってから分かることがあつたり。私に分らないから一緒に調べたりもします。

一年を通してそうやって自然の中で発見できるってすごいなと思いますよ。「これはどうしてこうなっているの？」っていうことも、自然と子ども達は答えを見つけていきます。その過程を私も一緒に楽しめる。だから答えを知らなくても、少しずつ分かってくんだなって

う過程があるんです。だから私も楽な気持ちで付きあえる。

それと、色んな先生が言っているんですけど、ホントに外に出るとケン力がないます。そしてホントに協力するんです。お部屋ではスゴイやり合う子ども達です。森林や山に行くとなぜか協力するんです。そういう不思議な力を自然は持っている、すごく感動します。何でか分からないけど、だからこそ何度も連れて行きたいですね。

A：来たばかりの子なんかは「おかしーん」って泣くんですけど、どうにかして外に連れ出すと、泣きながらも松ぼっくり拾ったり、ベソかきながらポケットいっぱい木の実拾って「お母さんに見せるんだ」って。帰って来たらまたわんって泣くんですけど、二回目からはだんだん外に行くとか面白い物があるって分かるようになってくるみたいですね。

●森林や山は、お互いを気遣いあつて、助け合う気持ちを生まれさせるんですかね。相互扶助みたいな精神がそういうところから生まれてくるのかも知れません。それと、きつと泣く子も黙るくらいの発見があるのでしょうかね。

じゃあ、お二人とも子どもに引張られて遊んでいるような感じなんですね。B：大人同士で自然に行っても絶対この感覚はないだろうなと思います。子ども達は何を持っていなくても、自然の中から次から次へ遊びを発見して何時間でも遊べます。それと遅いですよ。顔がちよ

っとくらい切れたりしても、笹藪の中に入って行って遊んだり、大人でも登れないような坂を、ササを頼りに登ったり。

●遊びを創造する力があるっていうことですよね。何もないところからでも何かを創造する力ですね。

C：良く聞くのは、大谷第二幼稚園の子は何もなくても遊べるって。他の子は何かしらおもちゃがないと遊べないんだけど、ここの子たちは、棒でもなんでもあつたらそれで地面をほじくったり、何かを見つけたら遊んで遊びを探し出すんです。何でも遊びに変えちゃうんですね。

D：気づけるんですね。本人達は自覚してないけど、そこに面白い物があるって気づく目を持っているんだと思います。

C：小学校三年生にあがったうちの子が、「今日学校でキツツキ見つけた。私が一番に見つけた」って喜んでいました。きつとそういう何かを見つけて認識するっていうことって、ここの幼稚園が一番伸ばせるんじゃないですか？

D：虫でもなんでも見つけるのが早いよね。目が出てくるっていうか。親よりもずっと早いですよ。小学生になって色んな幼稚園を卒園した子が集まってる中でも、違つ風に見えますね。

●僕も小学生に自然の観察をさせることがあつたんですけど、物を見つめる目を持たせることがまず大変ですよ。大抵の子は、外に行つてもそこに何かがあるんだよっていうことが初めは分からないです。子ども達は色んな事に関心を持てるようになってくるのかな。感受性が豊かなんですね。環境教育的に言うとか、幼児期には興味を持つ心、関心を持つ心を育てるために自然や生命と親しむことが必要とされていて、そのことは存分に果たされているって感じですね。それを先生方が意識せずに一緒に楽しんでる姿が印象的です。

子どもと大人が共に楽しむこと。

●ちなみにみなさんは小さい頃は外で遊んでいましたか？

C：私は、小さい頃は田んぼで遊んでいましたね。本州出身なので、山は無かったですけど、田んぼで：



●どじよっ子だのふなっ子だの捕ったりして遊んでいたんですか？

C：はい。カエルとか。

●それは今になって子どもにそういう遊びをさせたいとか、そういう気持ちになつてきているんですか？

C：そうですね。私も大学行って働いている間自然に全然接することが無かつたんですけど、この幼稚園で子ども達と外に連れて行つてもらつて、そこで本当に心から楽しめたんですね。そういう風にしていて、昔自分が匂い、田んぼの匂いなんですけど、それを感じながら遊んでいたことを思い出して、子どもの目線に戻つて、子どもの立場で楽しめる雰囲気が出たんですよ。この辺りの公園ではそれはできないですよ。

●一緒に楽しめるつてすばらしいことですね。子どもに共感してあげられるつて、「センス・オブ・ワンダー」にもそのことが書いてありますけど。

D：私は札幌育ちで、外で遊ぶのが好きだったことは覚えているんですけど。今は子ども達と外に行くことで、昔外で気づけなかったこととか出来なかつた遊びを今やらせてもらえてるのかな。つて思つて、園外保育の時に手伝いつていう名目で連れて行つてもらえるのが楽しいです。

●なるほど、自分が色んな発見があるつていうことですね？

D：私じゃなくて、子ども達が見つけた物を、私達に「こんなのあつたよ」つて見

せてくれるんです。子ども達が見つけた物を私達が教わるみたいな感じで。

●発見を共有できるんですね。子ども達が発見する。それを受け止める大人達もいて、両方が同じ発見の喜びを共有できるつて、素敵ですね。

(園長先生)：お母さん方は園外保育のボランティアで来てもらつてるんですよ。外に行くときは、人手がたくさんあるつていうより、目がたくさんあると助かるんですよ。子ども達を見る目がね。最初の方は頼んで来てもらつてただけで、今は呼ばなくても、お母さん方から来てくれますね。

●それはすごい。お母さんも楽しめるつて、なかなかその雰囲気は作れないですよ。園外保育の記録を読んでいて思ったのですが、子ども達の疑問に逐一答えてあげられる先生が出てきますよね。それは子ども達には大きな存在になつていて、思うのですが、子どもの疑問に答える知識つていうのは重要なんでしょうか。

C：あれは何？これは何？つて、色んな事を知りたいつていうそういう時期なんだと思います。色んな事が不思議でしょうがないので、それで自分が発見した物がなんなのかを受け止めてくれる人の存在は大切ですね。でもそれは知識とかではなくて、発見を共有するとか、発見したことを認めるつていうことで。自分が発見したという体験に、子どもはすごく興味を持つみたいで、体験したことは全然忘れないし、図鑑を買つてあげても自分が

見つけた物のことはよく調べるけど、それ以外の物は「ふーん」つて見ているだけみたいです。

●なるほど。発見とそれを受け止めてあげられる大人が重要なんですね。それこそが特別な体験になつて自分の中に溜まつていくんですね。今までの話から、大人が一緒にいて、子どもの発見に共感してあげるといのがキーワードのような気がします。



大人になつて生きる
原体験

●昔の自然遊びが今、大人になつてから役に立つてるんとか、そういう部分でありますか？僕は小さい頃、池で遊んでいたときに蛆(うじ)の沸いたカマの死体を見たんです。その時に生と死の事を認識したんです。そのころから命について、すごく考えるようになりました。

●そういう、今の人生にながつているようなことつて、難しいかも知れないです。

A：私の実家は山の中なんですけど、小さい頃家の中にミンク(アメリカミンク。毛皮用として繁殖していたものが逃げ出して野生化し、今は全道の河川に分布している。)が入つてきて、網に引っかかつてもがいていて、それが珍しいつていので袋に入れて飼おうとしたんですけど、袋から逃げ出してしまつて、次の日朝起きたら、逃げたミンクが仲間を連れてこつちを見ていたつていう記憶がなぜあつて、それで幼心にミンクにも家族が有るんだなあ。つて思つて。でも父は父で惜しかつたなあ。つて思つていて、私は私で惜しい気持ちもあるし、朝には裏の山にはミンクみたいな動物がたくさん生きているんだな。つて思うこともあつて。それが今になつて思い出すことがあつて、そういう忘れてしまったことつてたくさんあるんだけど、自然の中で感じた大事な事つてきつとどこかに残つていて、大きくなつた時に思い出すんだらうなと思います。

●そうですね。小さい頃に経験したことが

脈々と生きて、今の自分の基礎になって
いつているんですね。子どもにはそう
いう、人生の基礎になる色々な経験をし
て欲しいと思いますか？

A：はい。思いますね。昔は自分が山に住
んでいることがすごく嫌で、町に住みた
いと思っていたんですけど、今になって
そこに住んでいてよかったと思ってい
るし、誇りですね。そこにも幼稚園があ
るんですけど、その幼稚園では全然山には
行きませぬね。かえって部屋の中で遊ぶ
ことが多くて。

●なるほど、かえって周りにたくさんある
と気づかないですよ。その面白さとか
大切さとか。あるのが当たり前になっ
ちゃうんですね。そういう意味で、自然の
大切さを知っているこの幼稚園はす
ごい
ですよね。

子どもに 舵を取らせることについて

●ところで、園外保育の記録を読ませて
いただいて、外に遊びに行くときとか、子
どもに相談させて活動をを進めるって良
くやっていることなんですか？「今日は吹
雪だけど、外に行く？」とか。そこに
なにかねらいつてあるんですか？

B：一応外に出たら歩くコースは決めてる
んですけど、吹雪の日なんかは行きたい
子もいれば行きたくない子もいて、じゃ
あどうする？って聞きますね。やっぱり
危ない時とか目的があつて外に出ている
ときは、それとなくこっこの思惑を伝

えたりするんですけど、基本的には子
どもに判断を任せる形を作っています。お
部屋の中ではやっぱり話を聞いて欲しか
つたりするから強く言うこともありますが
でも、自然の中に行ったら、優しくなり
ませぬか？（笑）。

C：なるなる！（笑）

B：ちよつと子どもの言うこと聞いちゃう
って感じで。今日はこういう経験し
てもらいたいなっていうのはあるけど、
どうしてもっていうわけじゃないし。そ
ういうところで色々な意見を聞いたり、
そつちの道はどうなってるんだらうって
想像したり、そうやっていくとやっぱり



こつちに行きたいよね。って行くとき
ぱり私達も子ども達も楽しい。

A：何となく、何も話しかけていないけど、
みんながこつちの道を選ぶような、そん
なままとまった雰囲気の時もありますよ。
でも、「あ、こつちの道はどうなってる
の？」っていう時は、木の枝一本立てて、
ちよつと自分の行きたい方向気味に倒し
て（笑）みたり、もちろんどうするか話
し合ったりして、みんなが納得するよう
にしていますね。

●それで、子ども達が選んだ道に入ってい
って失敗しちゃうことってないんです
か？行き止まりとか。

A：ありますよ。
●そういうときって、どういう声のかけか
たをするんですか？

A：この幼稚園に来たばかりの時、植物
の名前とか、全然わからなくて不安だっ
た時は、外に行くのも不安でした。植
物の名前聞かれたとき答えられなかつた
らどうしようって。でも、分からない物
は分からないで、みんなで調べればい
んだって思えてからはそういう失敗を気
にしないで済んだんです。だから、
子ども達が選んだ道が行き止まりだつた
りしても、それは間違っていたという
ことじゃなくって、色々な道があつて、
こは行き止まりだつたから別の道を行
けばいいね。とか、それなら戻ればい
かって、そうなら楽しく歩けます。
行き止まりでも、それが楽しかったりし
ますよね（笑）。

●そういう、合意形成って言うんでしょ
うか、話し合つてみんなで決めて、でも失
敗しても、それがマイナスの方向ではな
くて、いくつかがある選択肢の一つに過ぎ
ないから別の選択肢にチャレンジすれば
いいよ。っていう、そういう感じなんで
すね。自分に自信・自尊心を持つって、
セルフエスティームっていわれているん
ですけど、一度の失敗で立ち直れなくな
ってしまつて引きこもってしまう人はそ
の自尊心が足りないと言われている、そ
ういったものが最近の環境教育のキーワ
ードになっています。

●それと、これも園外保育の記録で読ん
だんですけど、やっぱり子どもにも相談さ
せて、捕まえた魚を持ち帰って飼うとい
うことになって、案の定持ち帰った魚が
半分以上死んでしまつて、子ども達が落
胆してしまつたということがあつたと思
うんですけど。

A：自分達が魚をどんどん捕れたことが嬉
しくて、楽しく捕った魚だから、とても
愛着が強かつたんだと思います。でもそ
の先のことを想像することは多分できな
くて、一生懸命かわいがるからどうして
も持つて帰りたい。っていうことになつ
て、先生方で相談して決めたんですけど、
みんなとても気にしていたし、次の日の
朝は一番に水槽に駆け寄りどうなつた
かなって心配していたんですけど、やっ
ぱり三分の二くらい死んでしまつていま
したね。その姿はものすごく衝撃で、子
ども達はすごくショックを受けていまし

たね。先生が何も言わなくても、子ども達から生き残った魚を逃がして欲しいって言い出しました。私がどんなに考えて話す命の話よりも、命の事が分かったと思います。

● やっぱり自分の体験として命に触れたからですよ。自分の手の中で命が消えていった感触を知っている事って、生と死を理解する上で絶対に必要なものだと思います。魚が死んでしまうだろうという予想はある程度あったと思うのですが、それを押し切って命を教える方向に持っていたのはすごいと思います。

A：昨日元気がだった魚が今日死んでしまつて、それは何故なのかって考える子どももいましたね。水の温度なんじゃないか、水道水のせいなんじゃないかって。

● 科学的な見地で分析したい気持ちもあつたんですね。それがこの失敗を繰り返さないことにもつながるって、意識はしなかったのでしょうか。そういうことを、一番良い形で気づかせてあげられた出来事だと思つてすごく感動したんですけれど、そういうことをしてあげられる幼稚園の先生も、大人も、すごく少ないと思えます。川の魚を捕ることも虫を捕ることも捕った生き物を飼うことも許さない大人が多いですよ。外に出て自然に触れる活動をたくさんやるからこそ、そういう命に触れる大切な機会をたくさん持っているだと思えます。



子どもに伝えたい思い

● 特に外に子どもを出すことで意識して伝えたいことありますか？

B：んー。私みたいに、小さい頃に野山で遊んでいなくて、マンシヨン育ちだったから自然の中で遊んだ経験が少なくて、今自然の中で活動していて、もつと昔から森林でこういう経験をしたかつたっていう思いがあるから、だから子ども達にはたくさん自然の中で遊んで欲しいと思つています。今、子ども達と一緒に自然

の中を歩いて、子ども達と一緒に色々な発見をして、すごく良い時間を過ごさせていたでいてるんですけど、私、この幼稚園で働いていなければたら自然の事に興味を持つこともないし、季節が来たから、「あ、あの花が咲いたな」とか、そういうことを感じる心が持てなかつたと思うんです。でもそれはとても寂しいことだなんて思うから、だからこそ、小さい子達をいっぱい連れて行って、何を教えるっていうわけじゃないけど、色々なことを経験して欲しいなって、すごくそれは思います。

● Aさん、いかがですか？

A：目を見張ったり、匂いに集中するっていうことが、普段はそういう機会がないのを、自然の中では存分にそういうことができるんだけど、意識してそういうことをするんじゃないかって、自然とそういうことに心が行くっていうか。自然の中で色々な感覚を使って欲しいですし、自然とにありがとうっていう感じですね。子ども達と一緒にいる自分も、何かを見つけていうこと言う目だけの自分じゃないって子どもだけじゃなくて一緒にいる大人が子どもの発見と一緒に、成長できるような、そんなことがたくさんやっていけたらな。って思います。

● お母さん方は、外に行くことで子どもにどんな大人になって欲しいとか、そういう希望はありますか？

D：五感というけれど、六感まで育つような、人に言われて気づくのではなくて、自分で気づいて、自分で考えて行動していけるような、そういう感覚を与えてもらえればいいかな。って。自然の中に行く心が解放されるような感覚があると思うので、そういう六感までも型からはみ出て、広がっていくような、人の心でも季節のこともいいんですけど、そういうものに気づいていけるような子になつてほしいなと思います。

C：山に行くときには、それぞれみんなが協力しないと登れないんですよ。引つ張つたりお尻を押しあげたり、生きていくためには協力し合わないといけないっていうことが分かったんじゃないかなと思つて。自然ももちろん知って欲しいけど、人間が助け合つて生きていくっていうことも、自然と人間が助け合つていくということも、そういうことも知っているといる人になつてほしいなと思います。

● 仲間を認識する事って、社会に入る最初の一步ですよ。みなさんの話や園長先生の話を聞いて、この幼稚園でやっていることって、社会で必要なことが全部入っているように思えます。今のうちからそういう事を知っている子が社会に増えると、色々な社会問題が解決する気がします。

幼稚園として
必要なこと

●ところで、ここでやっていることって、他の幼稚園でもできると思いますか？できるとしたら何が必要なんですか？

A：園の特色だったり考え方があったり、カリキュラムややり方が違うと思うんですけど、一週間に一回だったりする外出を二回にしたり、近くの公園をちよつと遠出して向こうの森にしたり、そういうことが少しずつでも増えて、自然の中で遊ぶ子ども達の表情に気づいて、子どもにとってこういうことが大切なんだなって園が思えば、それを広げていけるんじゃないかな。子ども達に大事だと思える事を、それぞれの幼稚園がやっているんで、だからその部分が自然だつて言うことになれば良いんですけど。

●園の管理者とか、先生がそのことに気づくことがまず始めなんでしょうか。大人が子どもの楽しむ姿に気づくことって、とても本来的に必要なと思うけど意外にできていないかもしれませんね。

D：他の幼稚園を見たときに気づいたんですけど、この幼稚園と同じ事をやっているけど、違ふなつて思ったのは、先生方が本当にこれをやるのが良いと思つてやつていないと思つたんですね。仕事としてやっているか、本当に子ども達のために良いと思つているからやっているか、見た目に出してしまうし、子ども達も感じると思います。だから、先生方が、

本当に良いと思えることがまず最初だと思いますよ。

●なるほど、まさに伝える側が自然の中で遊ぶことの面白さとか、重要性を知つていなきゃいけないということですね。管理者と先生が気づけば、それが園として活動を取り上げていくことにつながりますね。大切なのは、森林での様々な発見や学びに大人が共感する環境を作ることのように感じます。

人を傷つけない。
自分を認めてあげられる子。

●最後に、自分達の子どもが、こんな遊びを通じてどんな大人になつてほしいかありますか？

C：すごく基本的なんですけど、人を傷つけない子ども。勉強云々よりも人のものを盗んだり、傷つけないしなれば。それと自分を傷つけない。まずそれが最低の目標です。

D：人の気持ちを大事にしてほしいですね。人の気持ちを分かること。人は自分だけでは生きていないんだよ。つて。これをしてしまったら相手の人はどう思うかなあつて、気づく人になつてほしいですね。それが一番基本なんですけど、欲を言えばきりがありませんよ(笑)。

●先生方としてはありますか？指導者として、将来この子をこんな風にしたいたいか。
A：こういう色んなことを体験するなかで、初めはやっぱり失敗ばかりなんですけどね。でも、失敗して「ああ、僕だめなんだ」

つて思わないで、自分を信じてあげる子に育てたいと思います。みんなが同じペースで育つわけじゃないし、それぞれ得意なことが違うけど、それが悪い訳じゃない。くじけちゃつても、自分のペースで大丈夫だよ。つていうことが伝えられたいかな。いつも近くで励ましてあげられる人がいればいいけど、そういうわけにいかないから、いつかは自分で自分を励まして、自分を認めてあげる。

B：人それぞれペースが違うつていう話が出たんですけど、その通りで、やっぱり子どもによってみんな違うから、一つでも自分の得意なものがあつたり、自信のあるものがあれば、それは支えになるよね。つて思います。人生で強い支えになるし、人を認めることもできるんじゃないかな。ああ、この人はこんなことができるんだ。すごいな。つて。そういう部分は持つていてほしいな。その子自身も他の人も認めてあげる気持ちのある人になつてほしいですね。

●森林はそういうものを育てる場ですか？
A：そう思います。



インタビュー：2005年3月 於 札幌大谷第二幼稚園職員室
聞き手：檜山知弘 (NPO法人ねおす)
話し手：A,Bさん 札幌大谷第二幼稚園教員
C,Dさん 札幌大谷第二幼稚園園児の保護者

※本文中では、便宜上保護者の色と指導者の色を分けました。